

## 2026年度「書物との出会い イ（近代ヨーロッパと現代）」リーディングリスト

\*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) ガリレオ・ガリレイ (2017) 『星界の報告』(訳) 伊藤和行、講談社、ISBN : 9784062924108
- (2) 学問領域 : 天文学
- (3) キーワード : 地動説、木星の衛星、月面クレーター、望遠鏡
- (4) 難易度 : 1
- (5) 紀元前から始まり、わずか 400 年ほど前までは太陽、月、惑星、星々(恒星)が地球の周りを回っている「天動説」が世の中の常識だった。そんな中、ガリレオ・ガリレイは望遠鏡(覗き眼鏡)を手に入れ、自らも作成し、星界への第一歩を踏み出した。人類史上初めて望遠鏡を駆使したとされる天文学者の感動が赤裸々に語られた歴史的な報告書である。
- (6) 推薦者 : 徳田一起 (教育学部)

- (1) 高水祐一 (2021) 『宇宙人と出会う前に読む本 全宇宙で共通の教養を身につけよう』講談社、ISBN : 9784065243114
- (2) 学問領域 : 天文学、物理学、化学、生物学、数学
- (3) キーワード : 宇宙論、連星、ビッグバン、元素、エネルギー
- (4) 難易度 : 2
- (5) 皆さんが大学に入学した際、「〇〇県から来ました」というと普通に伝わりますよね。私たちは現在、「地球」という惑星に住んでいます。例えば、地球外の未知の知的生命体に遭遇したときに、それをどうやって説明しますか? おそらく簡単な答えはないでしょう。私たちは太陽系に一つだけ恒星がありますが、宇宙ではそれは常識ではありません。宇宙での私たち地球人の位置付けを見直すきっかけを届ける、そんな一冊。
- (6) 推薦者 : 徳田一起 (教育学部)

- (1) 中村士・岡村定矩 (2011) 『宇宙観 5000 年史』東京大学出版、ISBN : 9784130637084
- (2) 学問領域 : 天文学
- (3) キーワード : 古代天文学、コペルニクス革命、銀河、宇宙における人間の位置
- (4) 難易度 : 3
- (5) 天文学は最も歴史の長い学問の一つである。その歴史を古代から現代まで紐解く。コペルニクスの回転から地球外生命体、地球環境への影響まで広い視点で網羅されていることが特徴であり、天文学を志す人はもちろん多方面の人々に読んでもらいたい網羅的な一冊。
- (6) 推薦者 : 徳田一起 (教育学部)

- (1) 村上陽一郎 (2021) 『科学史・科学哲学入門』講談社、ISBN : 9784065228395
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学（科学史）、自然科学一般
- (3) キーワード：
- (4) 難易度：1
- (5) 君は「自然科学は物のありのままの姿をとらえる」と考えていないだろうか？たしかに、現代社会において自然科学は決定的な役割を果たしているが、決して普遍的・絶対的なものではなく、歴史のある時点で生み出された特定の物の見方にすぎない。本書では、このような観点から自然科学を見直す手掛かりを与えてくれる。キリスト教と科学の関係を学ぶことができる点でも優れた一冊。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 御子柴義之 (2015) 『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、ISBN:9784005007981
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード：理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度：1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと…」と思っている人にまず読んでほしい一冊。身近な出来事を手掛かりにカント哲学の核心と「自分で考えること」の大切さを教えてくれる名著。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 小林道夫 (2006) 『デカルト入門』、ちくま新書、ISBN : 9784480062932
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学（科学史）
- (3) キーワード：認識、近代自然観、心身問題、科学哲学
- (4) 難易度：2
- (5) 「*cogito ergo sum*（私は考える、ゆえに私はある）」で有名なデカルト。この言葉はどんな歴史的文脈で述べられたのだろうか。この言葉が近代の自然科学の確立と密接な関係にあることが、この本を読めばよくわかるはず。デカルト哲学の奥行きを平易な言葉で説明してくれる、最良の入門書。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 黒崎政男 (2000) 『カント『純粋理性批判』入門』講談社、ISBN : 9784062581929
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学（科学史）
- (3) キーワード：理性、批判、
- (4) 難易度：2
- (5) 著書の名前を、高校の教科書で目にした人もいるのではないだろうか。実は、彼はカントの専門家でもあるのだ！クリアな文章に定評のある「哲学者クロサキ」が、『純粋理性批判』のエッセンスを、自身の経験を交えて平易に説明する。難解な哲学書に取り組むには「そもそも扱われている問題は何か？」をまず理解することが重要。その答えを確実な仕方で与えてくれる一冊。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) ルネ・デカルト (2006) 『省察』筑摩書房、ISBN : 9784480089656
- (2) 学問領域：哲学・倫理学・論理学、歴史学（科学史）
- (3) キーワード：方法的懐疑、コギト（私は考える）、神、心身二元論
- (4) 難易度：3
- (5) 言わずと知れた近代哲学の最高峰。デカルトの出発点は、全てを疑うこと。そこから一步一步思考をすすめて、最後には世界観を刷新する知識を確立する、という展開は非常にドラマティック。原書をゆっくりと辿り、デカルトの強靱な思考を直に体験しよう。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 松本博雄・常田美穂・川田学・赤木和重 (2012) 『0 1 2 3 発達と保育：年齢から読み解く子どもの世界』ミネルヴァ書房、ISBN：9784623063567
- (2) 学問領域：発達心理学、保育学・幼児教育学、子ども学、福祉学
- (3) キーワード：子ども、乳幼児、発達、保育、子育て
- (4) 難易度：1
- (5) 見方を変えれば、子どもはもっと面白い！ 発達研究の視点から乳幼児の世界をのぞきつつ、保育・子育てに笑いとお希望を見いだすヒントが満載。発達するとは何だろうかを、子どもと大人の違いから学術的に問う第一歩となる一冊。
- (6) 推薦者：松本博雄（教育学部）

- (1) ロゴフ, B. (2006) 『文化的営みとしての発達：個人、世代、コミュニティ』（訳）眞賀千賀子、新曜社、ISBN：9784788510135
- (2) 学問領域：発達心理学、文化人類学、認知心理学、教育学、社会学、言語学
- (3) キーワード：発達、文化、認知、参加、コミュニティ
- (4) 難易度：2
- (5) 発達とは「何かができるようになる」ことか。誰もが同じようにできるようになるのか。ヒトは文化の一員として生まれ、その中で成長するという事実をふまえ、私たちのあたりまえを「発達」をキーワードに問い直す一冊。
- (6) 推薦者：松本博雄（教育学部）

- (1) ヴィゴツキー (2001) 『新訳版・思考と言語』（訳）柴田義松、新読書社、 ISBN：9784788041103
- (2) 学問領域：発達心理学、教育心理学、認知心理学、教育学、言語学
- (3) キーワード：発達、社会、歴史、コミュニケーション、思考・認知
- (4) 難易度：3
- (5) 38歳で夭折し『心理学のモーツァルト』と称される天才心理学者の最晩年の著作。普遍的な発達過程やメカニズムを描くことは可能か、ヒトらしさの根源である思考と言葉はいかに生みだされるか等の根源的な問いを考える上で、今もなお全世界で参照されている。
- (6) 推薦者：松本博雄（教育学部）

- (1) 加東大介 (2022) 『南の島に雪が降る』筑摩書房、ISBN : 9784480432650
- (2) 学問領域 : 歴史
- (3) キーワード : 芸能、出会い、運命
- (4) 難易度 : 1
- (5) 著者は俳優であり、南の島に兵隊として送られた。従軍体験記。人間性を保って戦争を見つめている。叙述に悲壮感はない。それが逆に、戦争の無益さを感じさせる。なぜ「雪が降る」のか。その理由がほんとうに切ない。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) 半藤一利・加藤陽子・保坂正康 (2025) 『太平洋戦争への道 1931-1941』NHK 出版新書、ISBN : 9784140886595
- (2) 学問領域 : 歴史
- (3) キーワード : 侵略戦争、国際政治
- (4) 難易度 : 1
- (5) 太平洋戦争までの国内外の政治に注目して、その原因を探求した本。鳥の目によって大局を見ると同時に、虫の目によって経験の細部を歴史に接続する。対談であるが、別の選択肢もあった分岐点を直視する好著。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) 吉田裕 (2025) 『続・日本軍兵士』中央公論新書、ISBN : '9784121028389
- (2) 学問領域 : 歴史
- (3) キーワード : 戦病死、人間軽視
- (4) 難易度 : 2
- (5) アジア・太平洋戦争の現実を兵隊の健康や装備に注目して描いた本。戦死者の大半は、戦闘ではなく、病気や飢餓によって死んだ。その多くが敗戦前の1年間に集中している。無能な政府に死を強いられた人々を忘れたくない。
- (6) 推薦者 : 山本陽一 (法学部)

- (1) チェスタトン (2019) 『正統とは何か』 (訳) 安西徹雄、春秋社、ISBN:9784393416136
- (2) 学問領域：思想
- (3) キーワード：保守思想、童話、神秘
- (4) 難易度：3
- (5) 推理小説作家の一人として有名なチェスタトンだが、キリスト教を擁護する保守思想家である。彼は大まじめに「われわれは死者を会議に招かなければならない」と言い、「狂人とは理性を失った人ではない。狂人とは理性以外のあらゆる物を失った人である」と言っている。しかし彼はいたって正気であり、我々は彼によって世の中の「常識」を知るだろう。
- (6) 推薦者：渡邊史郎 (教育学部)

- (1) 太宰治 (2009) 『お伽草紙』 新潮社、 ISBN: 9784101006079
- (2) 学問領域：小説
- (3) キーワード：戦争、日本古典文学、パロディ
- (4) 難易度：2
- (5) 太平洋戦争中、娘と一緒に防空壕に逃げ込みながら書かれたと言われる、日本の昔話のパロディ「お伽草紙」などをおさめた本である。「浦島さん」、「カチカチ山」、「瘤取り」などには、日本社会や日本人への嫌みが炸裂している。それは滅びつつある日本に対する正直な批判であり、悪ふざけでもあり、愛情でもあった。
- (6) 推薦者：渡邊史郎 (教育学部)

- (1) 鳥越信 (1983) 『桃太郎の運命』 NHK 出版、ISBN : 9784140014370
- (2) 学問領域：文学研究
- (3) キーワード：桃太郎、植民地主義、おとぎ話
- (4) 難易度：3
- (5) もともと、桃を食べて若返った婆さんの子どもであり、恐れ多くも乙姫と子どもを作ってしまうのが桃太郎である。つまり百八煩惱の化身である。その彼が明治期の教科書で孝行息子＝英雄になり、芥川龍之介の「桃太郎」では鬼たちを惨殺する侵略者となったので、やはり百八煩惱の化身であった。もっとも、その他いろいろな桃太郎がおり、鳥越氏によってそれが冷静に分析された。
- (6) 推薦者・渡邊史郎 (教育学部)

- (1) 宮崎正勝 (1997) 『鄭和 (ていわ) の南海大遠征 : 永楽帝の世界秩序再編』中公新書、ISBN : 9784121013712
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 中華帝国、中華秩序、永楽帝、鄭和
- (4) 難易度 : 1
- (5) 近代におけるアジア秩序の再編の前史として読んでもらいたい一冊である。世界史の教科書にも出てくる鄭和の南海遠征、その背景には明王朝・永楽帝による中華秩序・朝貢システムの再編があった。永楽帝は多くの宦官を派遣し大交易を展開させ、中華帝国を中心とする秩序の形成を強力に押し進めた。本書は硬い歴史本というより、時代の大転換期に生きた、辛酸をなめつくした鄭和というひとりの人生を描いたものであり、読みやすい書物である。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 金谷治 (1997) 『中国思想を考える—未来を開く伝統』中公新書、ISBN : 9784121011206
- (2) 学問領域 : 哲学
- (3) キーワード : 中国思想、中国哲学
- (4) 難易度 : 2
- (5) 西洋の物差しでは中国人の行動をまるで理解できない。なぜなのか。西洋哲学や近代的な価値観が近代以降において、世界規模で共有されるようになってきたが、中国人の人生哲学には古代から代々引き継がれた「中国思想」が依然として深く影響を及ぼしているからである。「現実の尊重」、「儒家的合理主義」、「对待 (たいたい)」、「中庸」などの思考法はその代表である。本書は、中国哲学を専門とする日本の東洋学者・金谷治が、自らの考えで中国思想の特色とみられるものを取り上げて、それを説明しながら、現代の立場からの吟味を加えたものであり、現代の中国人の発想法を理解するために有益な書物である。整った思想概説という性質ではないため、読みやすい。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)

- (1) 浜下武志 (2013) 『朝貢システムと近代アジア』岩波書店 (岩波オンデマンドブックス)、ISBN : 978-4007300608
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学
- (3) キーワード : 朝貢システム、西洋の衝撃、地域秩序
- (4) 難易度 : 3
- (5) 本書の主な論点は、近代のアジア地域にみられる国際秩序の変容は外因によるものか内因によるものか、についてである。西洋の衝撃によって開始されたとするアジアの近代化論は一般的であったが、本書はこの見方に対して批判的である。著者によれば、近代以前の清王朝を中心とする朝貢システムが、西洋の衝撃の以前の時期からすでにその内部では中心と周縁との相互交替が進行した。本書は、近代に表面化したアジア地域の秩序の変化を多面的に理解するための重要な視角を提供してくれる。学術書のため、理解するために精読が必要であるが、各章で展開された緻密な実証はおもしろく、高い満足度を得られる作品である。
- (6) 推薦者 : 張曉紅 (経済学部)